

宮崎清隆 みやまき しみづたか 舊陸軍軍人。大正七年十月～二十九年九月新潟縣刈羽郡田尻村生れ（一九二八）。日本大學卒。昭和十四年高田獨立山砲兵第一聯隊入隊、十七年憲兵となり、終戦時憲兵曹長。戦後は全國憲友會東京常任委員、鐵道弘濟會本部調査役編集長、全日本空手道剛柔會本部相談役等歴任。

著書『憲兵』（昭和二十七年九月十五日富士書房）、『續憲兵』（昭和二十七年十一月～二十八年八月富士書房）、『野戦看護婦』（安齋貞子名）（昭和二十八年六月）二十日富士書房。再刊・二十一年四月～二十七年四月東京ライオン社「東京選書」、『軍法會議』（昭和二十八年九月十五日富士書房）、『黒い声』（「続憲兵」「軍法會議」の改訂合本）（昭和二十一年十一月～二十日東京ライオン社「東京選書」）、『明日なき十月』（昭和二十一年四月～二十日東京ライオン社「東京選書」）、『あれから十年』（昭和二十一年四月～二十五日東京ライオン社「東京選書」）、『支那派遣軍かく戦えり・北支電撃作戦の巻』（昭和四十一年十一月～二十日大光社「サン・ブックス」）、『鎖と女と兵―初年兵時代』（昭和四十一年七月～日宮川書房）、『憲兵』（昭和四十五年十一月～二十日創想社）等。

